

(様式1) 令和5年度 小中一貫教育「徳島モデル」推進事業実施報告書

実施地域	美馬市木屋平地区（木屋平小・中学校）																															
1 本年度の研究テーマ	ふるさと木屋平に夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成 —子どもたちの「多様な学び」を保障し、未来の創り手を育む—																															
2 取組の内容	(1) 「ゆずっ子カルテ」、 学びの合い言葉 「こ・や・だ・い・ら」 に基づいた評価の観点 から、ホップ・ステップ・ジャンプの成長段階 に合わせた指導のねらいを作成し、それをもと に一人一人の評価を記録したもの。	「ゆずっ子カルテ」 お互いを思いやる心 <table border="1" data-bbox="877 403 1404 716"> <tr> <td>観</td> <td>思いやりの心を持って人と接するとともに、周りの人の変化に敏感し、進んでそれに応える。</td> </tr> <tr> <td>説</td> <td>誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。</td> </tr> <tr> <td>行</td> <td>勇ましい人に黒い目で憎し、親切にする。</td> </tr> <tr> <td>①</td> <td>入学おめでとう奉告、七夕奉告、徳まいる奉告</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>① 傘下の子が活動しやすいような環境を造ることができる。</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>② 協調性を持って行事に取り組むことができる。</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>③ 周りの人と一緒に楽しく活動できる。</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>④ 親子ふれあい活動</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>⑤ 高学年で声をかけ、集団に溶けながら活動することができる。</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>⑥ 勇ましいせせかされたこと以外のことで勇ましくよく引きあわせることができる。</td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>⑦ 周りの人と一緒に楽しく活動できる。</td> </tr> <tr> <td>⑨</td> <td>⑧ 水中フェスタ</td> </tr> <tr> <td>⑩</td> <td>⑨ 関わってくださる方々に感謝し、それを表現することができる。</td> </tr> <tr> <td>⑪</td> <td>⑩ 地域から来てくださる人に対して、親切にできる。</td> </tr> <tr> <td>⑫</td> <td>⑪ 周りの人と一緒に楽しく活動できる。</td> </tr> </table>	観	思いやりの心を持って人と接するとともに、周りの人の変化に敏感し、進んでそれに応える。	説	誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。	行	勇ましい人に黒い目で憎し、親切にする。	①	入学おめでとう奉告、七夕奉告、徳まいる奉告	②	① 傘下の子が活動しやすいような環境を造ることができる。	③	② 協調性を持って行事に取り組むことができる。	④	③ 周りの人と一緒に楽しく活動できる。	⑤	④ 親子ふれあい活動	⑥	⑤ 高学年で声をかけ、集団に溶けながら活動することができる。	⑦	⑥ 勇ましいせせかされたこと以外のことで勇ましくよく引きあわせることができる。	⑧	⑦ 周りの人と一緒に楽しく活動できる。	⑨	⑧ 水中フェスタ	⑩	⑨ 関わってくださる方々に感謝し、それを表現することができる。	⑪	⑩ 地域から来てくださる人に対して、親切にできる。	⑫	⑪ 周りの人と一緒に楽しく活動できる。
観	思いやりの心を持って人と接するとともに、周りの人の変化に敏感し、進んでそれに応える。																															
説	誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。																															
行	勇ましい人に黒い目で憎し、親切にする。																															
①	入学おめでとう奉告、七夕奉告、徳まいる奉告																															
②	① 傘下の子が活動しやすいような環境を造ることができる。																															
③	② 協調性を持って行事に取り組むことができる。																															
④	③ 周りの人と一緒に楽しく活動できる。																															
⑤	④ 親子ふれあい活動																															
⑥	⑤ 高学年で声をかけ、集団に溶けながら活動することができる。																															
⑦	⑥ 勇ましいせせかされたこと以外のことで勇ましくよく引きあわせることができる。																															
⑧	⑦ 周りの人と一緒に楽しく活動できる。																															
⑨	⑧ 水中フェスタ																															
⑩	⑨ 関わってくださる方々に感謝し、それを表現することができる。																															
⑪	⑩ 地域から来てくださる人に対して、親切にできる。																															
⑫	⑪ 周りの人と一緒に楽しく活動できる。																															
(2) 知（学力の向上）の具体的取組	① 「学びのカルテ」の活用 ② 「こやダイアリー」 ③ NIE推進事業	「ゆずっ子カルテ」 お互いを思いやる心																														
	「こやダイアリー」 子どもと教職員による 交換日記	 「NIE」 徳島新聞NIE コーディネーター 野口幸司さんによる 授業																														
(3) 徳（豊かな心）の具体的取組	① にこびか会・にこびか集会 ② 他校との交流 ③ 地域の人との交流 ④ 「こやだいライツ」	 「こやだいライツ」 月に一度人権に関する読み 聞かせを行い、小中合同で 話し合う時間を設けている。																														
(4) 体（健やかな身体 安全安心な学校）の具体的取組	① 「こやプレ」「こやだいラン」小中合同体育 ② 命を守る学習 ③ 食育の充実 ④ 美しい環境の保持	 「こやプレ」 遊びを取り入れ た運動を週2 回、昼休みに行 っている。																														
3 研究の成果と課題																																
(1) 成果																																
① 子どもの変容	・お礼の手紙や感想文、「こやダイアリー」等目的をもって書くことで、文字を丁寧に書いたり、わかりやすい表現を考えたり、読む相手の事を思って書くようになった。 ・「こやだいライツ」や異年齢集団による集会活動等を通して、周りの友達を思いやる話し方や聞き方ができるようになった。 ・「こやプレ」「こやだいラン」等工夫した取組により、運動を楽しもうとする気持ちが高まった。また、自分の体の動かし方を考えながら運動に取り組むようになった。																															
② 教師の変容	・校種間連携がより深まり、様々な視点から児童生徒理解に努めることができた。 ・「ゆずっ子カルテ」「学びのカルテ」の活用により、指導の方向性を意識しながら子どもの育成を進めることができた。 ・特色ある取組を通して、教職員一人一人の経験値が高まった。																															
(2) 課題																																
① 子ども	・計画的に物事を進める力の育成 ・話し合う場面での調整力の育成 ・継続する力の育成	② 教職員・学校 ・持続可能な取組の推進が必要である。 ・子どもの数の減少や地域住民の高齢化に伴い、地域との連携の仕方について見直す必要がある。 ・子どもに対する客観的な評価について考える必要がある。																														

令和5年度「小中一貫教育(徳島モデル)推進事業」に係る指定地域の取組報告 美馬市立木屋平幼稚園、小・中学校

1 研究主題

「ふるさと木屋平に夢や誇りをもって、未来の創り手となる子どもの育成」
～子どもたちの「多様な学び」を保障し、未来の創り手を育む～

2 主題設定の理由(地域及び学校の概要)

本校のある木屋平地域は、剣山の北麓に位置し、山林が90%を占める農山地域である。地域人口は、1955年の6,500人から、現在は約500人(R5.4現在)まで減少している。

本校は、へき地3級指定校の小中併設校であり、敷地内に幼稚園もある。現在の園児・児童・生徒数は、幼稚園3名(年少1、年長2)、小学校4名(2・3年複式各1名、4・5年複式各1名)、中学校1名(3年)の計8名である。子どもたちは、純朴で素直な子どもたちであり、何事にも目を輝かせて取り組むことができる。幼稚園、小・中学校の12年間の日常的な「学びの連続性」は、子どもたちの成長に大きな影響があり、欠くことのできないものとなっている。反面、児童生徒数が少ないがゆえに、集団活動を伴う様々な体験的な学習の場面や機会の保障等は課題である。養護教諭・事務職員未配置校で、教職員スタッフはそれぞれ兼務しており、幼・小・中合わせて10名(業務員・SSS含む)である。

保護者や地域は学校教育に熱心かつ協力的で、積極的に学校行事に参加してくれる。昨年度は、コロナ禍の影響で2年間中止されていた地域団体主催の「こやだいら産業と文化のまつり」が再開された。今年度は運動会にも多くの地域の方々が参加していただき、盛り上がりを見せ、「子どもたちの姿を見ることができ、嬉しかった。」「元気になった。」「ありがとう!」など多くの声をいただき、地域における学校の存在意義を強く感じる機会となった。

今年度は、本校の子どもたちの課題のうち、①学力、②コミュニケーション力、③体力の3つの課題に焦点を当て、へき地、少人数、小中併設校の特性を生かしてどう解決し、未来を担う子どもをどう育成していくか、少人数の子どもたちにいかに「多様な学び」を保障し、どのようにすれば未来に生きて働く力を育成できるのか、全教員で協議し、研究を進めている。

3 研究の仮説

仮説1： 特色ある行事を有効に活用できれば、学習したことを活かす場や人と関わる場を設けることができるとともに、ふるさとを誇りに感じ、大切にしたい気持ちが育たろう。

仮説2： 教職員が相互に情報を共有し、児童生徒理解を深めれば、指導が統一され、個々に合った指導を行うことができるだろう。

仮説3： 多様な意見や思いに触れることができれば、自己理解・他者理解につながり、相手のことを考えた話し方や聞き方ができるだろう。

仮説4： 楽しみながら運動に取り組めば、体を動かすことが好きになり、生涯にわたって健全な体づくりに取り組むだろう。

以上の仮説から次のような「研究構想図」(次頁参照)を考え、実践していくことにした。学校重点目標、めざす教職員像をもとに、「こ・や・だ・い・ら」と、めざす子ども像を表した。そして、子どもたちが幼稚園から小学生、中学生へと成長していく段階をホップ、ステップ、ジャンプと捉え、知・徳・体、それぞれの面での具体的取組を考えた。また、独自の「ゆずっ子カルテ」を作成した。そして、「子どもたちの『多様な学び』を保障し、未来の創り手を育む」ことをめざし、今年度全教職員で研究を進めてきた。

研究構想図



5 研究の内容(具体的な取組)

(1) 「ゆずっ子カルテ」

毎年、淡々と繰り返される学校行事を子どもたちにとってより有意義なものとなるよう、「木屋平学びの合い言葉」に合わせて一人一人の評価を記録していくものである。

木屋平学びの合い言葉

こ	…	こきょうを大切にする子
や	…	やさしく思いやりのある子
だ	…	だいすき学校・だいすき自分
い	…	いっしょうけんめいに
ら	…	ラーニング、ランニング



① 「こ・や・だ・い・ら」に合わせた評価の観点。

評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ㊦ 自然環境を大切にできる心、故郷を愛する心 ㊧ お互いを思いやる心、社会の一員として貢献しようとする態度、コミュニケーション能力 ㊨ 健康で安全に生活する力、目標に向かい自己を高める力、愛校心 ㊩ 集中力・忍耐力・責任感 ㊪ 人権を尊重する心、学力向上、体力向上
-------	--

② どの行事で見取るか、「年間計画」の作成。

③ 評価の観点ごとに、ホップ(H)、ステップ(S)、ジャンプ(J)の成長段階を考えて、指導のねらいを作成し、さらに行事一つ一つにおける観点も、より具体的にホップ(H)、ステップ(S)、ジャンプ(J)の段階で作成し、担任が評価を書き込める欄を設定。

④ 「見える化」を図るため、ホワイトボード(※かがやきホール壁面に設置)に掲示し、子どもと教職員で共有できる工夫。

⑤ ホップ(H)、ステップ(S)、ジャンプ(J)に合わせたゆずのキャラクターを作成し、成長の見通しをもたせ、子ども自ら「めあて」を考え、「振り返り」できるように設定。

(2) 「学びのカルテ」

一昨年度より、一人一人の児童生徒の学びを記録・保存し、中学校卒業まで9年間継続したきめ細かい指導ができるような「学びのカルテ」を作成している。これにより、小中全教職員で児童生徒の共通理解ができ、育成すべき資質・能力等を共有できるようになった。また教員が異動しても学びの状況が引き継がれ、継続した指導がより可能である。カルテには、学年ごとの個に応じた知・徳・体の具体的な目標、保護者の願いを記録している。

	国語	算数
知		
小学校		
徳		
年生		
体		
保護者の願い		

例えば、「丁寧な文字を書く」「たし算・ひき算の筆算を正しくする」等、できる限り具体的に記述し、その目標を達成するために、学期ごとに具体的取組・計画・手立てとそれに対する評価を記録している。その後、実際に指導して、効果的な手立てやそうでなかった手立てなど細かな記録を保存し、次の学期や次年度につないでいる。今年度はさらに活用を図るため、年間研修計画に位置付け、学期ごとに全教職員で振り返っている。

(3) 「こやダイアリー」

昨年度から言語活動の充実をめざして、児童生徒と教職員による交換日記「こやダイアリー」に取り組んでいる。今年度は、記述する機会を増やすため、2冊で展開している。また、今年度より「NIE推進校」指定を受け、新聞記事の活用の仕方やよくわかる文章の書き方等のご指導をいただいている。これらの取組により、読む力や書く力、思考力や表現力が向上しつつある。

(4) 「にこぴか集会」と「こやだいライツ」

月に1回、児童会・生徒会を統合した「にこぴか会」を行っている。学校生活を振り返って話し合い、小・中統一した目標を決めている。その他、給食活動や児童生徒から提案された募金の呼びかけ、行事の企画など自主的に取り組んでいる。「にこぴか会」で決めた目標は、小中合同で実施している「にこぴか集会」で発表している。

この集会では、教員児童生徒による読み聞かせの時間をとってきたが、今年度は少し発展させ、人権をテーマとした読み聞かせを行った後、話し合いを行っている。

(5) 「こやプレ」と「こやだいラン」

昼休みの時間を小中で合わせ、「こやプレ」とネーミングし週2回、子どもたちと教職員が一緒に体を動かす時間を作っている。本校の課題である持久力向上に加え、筋力や投げる力、柔軟性や体の動かし方等体全体の力を高めるための遊びで、小中の体育担当教員が協力して内容を考えている。

また、毎年11月から12月にかけて小中の日課を合わせ、業間の時間に毎日10分間の持久走「こやだいラン」を行っている。「ゆずっ子カルテ」の中にも「こやだいラン」を取り入れ、めあてをもたせることで、粘り強く走れるようになった。

6 公開授業(授業実践より)

(1) 生活科(小学校第2学年と幼稚園)

① 単元の目標

幼児とともに、身近にある物を使って動くおもちゃを作る活動を通して、よりよく動くように改良したり、もっと楽しくなるように遊び方やルールを変えたりするなどの工夫をする。そして、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなで楽しみながら遊びを創り出そうとすることができるようにする。

② 本時の学習活動

「こやだいランドの活動を通して、参観者に対して、遊びの面白さや遊び方の説明及び工夫したことを順序よく説明することができる」を目標に授業を展開した。参観者に『こやだいランド』を楽しんでもらうために、遊び方を分かりやすく説明したり、参観者と一緒に楽しんだりした。

③ 成果と課題

児童は、参観者に対して遊び方や工夫点を順序よく説明したり、楽しんでもらうために積極的に声かけをしたりすることができた。また、年下の幼児が困っている時には、幼児のサポートをするなど、相手を思いやる行動がたくさん見られた。次時の授業では、仲間と共に活動することの良さや仲間の素晴らしさに気付き、幼児にお礼の手紙を書いた。今後は、自分の考えが相手に上手く伝わらない時、表現の仕方を変えて説明できるように、語彙を増やし、様々な表現方法を工夫し、表現力を向上させていきたい。



(2) 総合的な学習の時間(小学校第3～5学年)

① 単元の目標

児童の身近な伝統であり、地域と繋がる内容でもある「傘踊り」を調べる活動を通して、地域の良さや伝統を守ってきた地域の人々の思いに気付き、自分の思いや考えを行動に移したりこれからの生き方へ繋げたりすることができる。



② 本時の学習活動

今まで調べてきた「傘踊り」のひみつを互いに報告し合う活動を行った。それぞれが担当したテーマごとに報告し、自分の考えや思いも発表した。また、報告を聞いて気付いたことや思ったことを伝えた。

③ 成果と課題

児童は、担当したテーマについて報告する順序を考えたり内容を付け加えたり、相手を意識した報告会をすることができた。また、聞き手側もそれぞれの発達段階に応じて自分の考えをもち、報告内容に合うようにまとめて発表することができた。今後は、調べたことや互いに出し合った意見を新聞にまとめる活動を行うことで、自分の考えや思いを相手に分かりやすく伝える力を育てていきたい。

(3) 外国語科(中学校第3学年)

① 単元の目標

国を越えて助け合う大切さを理解し伝えるために、国際協力について書かれた英文を読み、自分の考えや気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いて話すことができる。



② 本時の学習活動

「アフガニスタンやザンビアに対する国際支援について書かれた英文を読み、自分にできる支援の方法を考え、簡単な語句や文を用いて伝えることができる」を目標に授業を展開した。生徒が具体的な支援方法を考えられるように、NIEを通して知ったアフガニスタンの状況を確認したり、マララ・ユスフザイさんに関する新聞記事を提示したりした。

③ 成果と課題

生徒は、仮定法を用いながら自分にできる支援について考えたことを発表することができた。また、「看護師なら」「栄養士なら」と、自分の就きたい職業と結びつけて考えを発表するなど、意欲的に学習に取り組むことができた。今後は、自分の考えを伝える相手を意識した言語活動を取り入れ、発信する力を高めていきたい。

7 成果と課題

(1) 成果

① 相手に伝えようとする意識

お礼の手紙や感想文、「こやダイアリー」など目的をもって書くことで、文字を丁寧に書いたり、分かりやすい表現を考えたり、読む相手のことを思いながら書けるようになってきた。

② 話す力・聞く力の向上

「こやだいライツ」や異年齢集団による集会等を通して、周りの友達を思いやった話し方や聞き方ができるようになってきた。

③ バランスのとれた体づくり

「こやプレ」「こやだいラン」等工夫した取組により、運動を楽しもうとする気持ちが高まった。また、自分の体の動かし方を考えながら運動に取り組めるようになってきた。

④ 教職員の協働・連携

小中併設校であり、幼稚園も同敷地内にある立地から校種を越えて体験・交流活動や行事等とともに実施することも多い。また、職員数も少ないため、協働・連携は不可欠である。そのような環境の中、「12年間の連続した学び」を意識した指導が行われている。そして、子どもたちも互いの学びや成長から学び合う姿が随所に見られるようになってきた。

(2) 課題

① 計画的に物事を進める力

与えられた活動や指示は、することを理解して取り組むことができるが、集会活動の準備や決めたことを自主的に進めていくことに課題がある。学習面でも生活面でも先を見通して主体的に取り組む力が必要である。

② 話し合う場面での調整力

話す・聞く力は付いてきているが、相手の意見を受け入れたり折り合いを付けながら話をまとめたりすることに課題がある。人との関わり方を学び、周りのことを考えて行動する力を育成することが必要である。

③ 継続する力

気持ちのコントロールが苦手だったり、難しいと感じたことから逃げてしまったり諦めてしまったりするなど、我慢強く最後までやり遂げることに課題がある。日々の生活を丁寧に積み重ねていく必要がある。

④ 教職員の円滑な引継と学びの保障

幼稚園及び小・中学校の教職員が1～3年間で異動するケースが多い。そのため、「学びのカルテ」や「ゆずっ子カルテ」等、木屋平独自の手立てを進めているが、「12年間の連続した学び」の保障や体験・交流活動や行事の継続をいかに進めていくか、課題である。